

巻頭言

地球「沸騰時代」の夏

顧問 熊野谿 寛

この夏はコロナ禍による制限を抜けて、ようやく「四年ぶりの夏合宿を実施」となるハズだった。でも、今年もまた多難な合宿計画となった。

部員たちが選んだ合宿先は、四国の高松から船で渡った小さな島である男木島。灯台の横に小さなキャンプ場がある。観光協会に問い合わせると、「せいぜい4～6人テント4張り程度のスペース。」「場所の予約はできない」という。なにせ学校の部活だし、地元と対立して良いことはないので、観光協会にテントのレンタルを申し込んで、場所の確保をお願いして一件落着。今は、**観光協会のwebに「使用ルール」を明記した申し込みフォームができたので**、迷う人も減るだろう。

次なる関門は交通機関。高松までの高速バスは、**早期予約可能な便は参加希望をとった段階で残席が足りない**。抽選で人を削るか、1か月前申し込みの路線を待つか??と問うと、部員は「待つ」と。しかし、一か月前の日曜、**申し込みすると座席が足りない**。これで、夜行バスを使う計画は崩れた。

あれこれ思案して辿り着いたのは、**格安・我慢大会ルート**。青春18切符を使う。「藤沢に昼に集合して、東海道線を三宮まで各駅・普通列車で乗り継ぐ」と夜10時頃に到着。バスを待ち、神戸港0時発のフェリーで高松に行くと朝4時過ぎに到着する。男木島には朝いちばんの便で入れ、「とにかく安い」。なにせフェリーが自由席で2000円しない。しかもネット申し込みだと中学生は子ども料金?!で半額。お尻は痛くなりそうだが、**四国まで往復1万円を切る**とは大したものだ。

ところが、ここに**最大の問題**がやってきた。グテーレスをして「地球沸騰時代」と言わしめた**異常気象の中でのウロウロ台風**である。7月末から台風6号が沖縄付近に停滞し、いったん戻ってからまた迷走した。8月1日の段階で部長たちに警告し、毎日、気象庁と米軍等の予想サイトを注視した。その後、合宿の2日前には四国直撃の予想が各サイトで共通に予想された。意見を求めると「これはムリだろう」と一致した。こうして**結局、今年も夏合宿はできなかった**。今までも二度、八丈島の合宿が台風でつぶれたことはある。しかし、まさか瀬戸内で中止とは予想外であった。実際には台風は九州西を朝鮮半島に向かったが、2.5m程度の波が瀬戸内の海岸には押し寄せ、高松では激しい雨も記録された。中止は妥当だろう。

今年の台風の動きは気候変動と無関係とは考えられない。偏西風の蛇行は寒冷渦の崩れからくる。そして、「沸騰時代」に灼熱の記録は全地球的なものとなった。日本の中部山岳では、冬にほとんど雪が山に降らず、湯水で多くの山小屋が早期休業となった。すべて私たち人間のなせる業なのだろうが、その進展は想像以上に早い。既に地球のあちこちで、マイノリティな人々からその生命と尊厳が奪われ続けている。

地球沸騰時代のアウトドア～それは私たちの未来が実に怪しいことを実感させるものとなっている。私たちは、自然に向き合う中で、「君たち人間は、本当に共に生き続けることができるのかのかね」と問われている。